2025年12月21日
アドベント第4週・クリスマス礼拝説教要約

時を超えた福音

（イザヤ60・1～3）

一、時の流れの中で

私たちは、時の流れの中に生かされています。ですが、時の流れに縛られているのかというと、そうでもないと思います。現に、ここに集まっている方のほとんどは、主イエス・キリストを信じています。2千年前にエルサレムで十字架にかけられて死なれたイエスさまを、創造主が遣わされた救い主、また神ご自身であったと信じています。私たちは何の抵抗もなく、その出来事を信じていますが、時に流れに縛られていたら、それを信じるのは不可能なことです。なぜなら、聖書がそのように語っていたとしても、それは単に過去の出来事になるからです。

そういうことからも、聖書は時の流れを超えた書であることがお分かりいただけると思います。聖書が、単に教えであるなら、「古典」として読み、「聖書には素晴らしいことが書いてあるなぁ」となります。しかし聖書は、旧約聖書も新約聖書も「時」を超えた書です。聖書を通して神は語り、キリストが語り、聖霊が語ってくださいます。ですから聖書は、旧約聖書も新約聖書も、「時」を超えた書です。その働きを経験している人は、時を超える神に出会っています。

二、イザヤ書に聞く

イザヤ書のテキストに聞いてまいります。60章1節から3節です。**〈「起きよ。輝け。まことに、あなたの光が来る。主の栄光があなたの上に輝く。見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を。しかし、あなたの上には主が輝き、主の栄光があなたの上に現れる。国々はあなたの光のうちを歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。〉**とあります。これは、紀元前750年以降に、南王国ユダで活動したイザヤに示された預言のことばです。福音派の教会を除いて、ほとんどの教会が、イザヤ書56章以降は、イザヤではない「第三イザヤ」のことばであると受け取っています。すなわち、帰還民によって神殿が再建されたものの、その後の生活が苦しく、律法（トーラー）から離れて行った時代に立ち上がった預言者、第三イザヤの預言であると受け止めます。私もそのように受け止めていました。ですがイザヤ書は、始めから終わりまで紀元前8世紀に召されて預言者となり、将来のことも、おぼろげに見せられたものであると受け止めるようになりました。もちろん、多少の加筆はあったことでありましょう。もし、60章が第三イザヤの預言であるとすると、帰還民が苦しみ、希望が見えない中で第三イザヤが神のことばを語り、それを帰還民たちが受け取ったことになります。以前は、それこそが預言者の役割だと考えていた時期もあります。ですが、そのような受け止めますと、神からの預言のことばの意味を狭くしてしまう、小さくしてしまいます。しかし紀元前8世紀のイザヤが預言した、と受け取るなら、60章は終末の預言であることが見えてまいります。

1節の**〈「起きよ。輝け。まことに、あなたの光が来る。主の栄光があなたの上に輝く。〉**は、キリストの到来によって実現し、終末において実現する預言という、二重性があります。

イエス・キリストの来臨は、ヨハネの福音書1章4節、5節にありますように、**〈この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった〉**でした。また、9章5節でキリストがおっしゃったように**〈わたしが世にいる間、わたしは世の光です〉**でした。さらに、**〈まことに、あなたの光が来る〉**の**〈あなた〉**は、イスラエルであり、神のイスラエル（ガラ6・16）である「教会で」す。イスラエル（＝ユダヤ人）の救いは終末に来ます。その場合の終末とは、キリストの再臨があって、今の時代が終わる時です。パウロがローマ書11章26節で、**〈こうして、イスラエルはみな救われるのです〉**と語ったそれです。

そういうわけで、イザヤ書60章1節の預言は、半分は主イエス・キリストの到来によって実現し、残りの半分は世の終わりに実現します。2節、3節も同じです。**〈イザヤ60・2～3〉**は、半分は主イエス・キリストの到来によって実現し、残りの半分は世の終わりに実現します。

三、聖書の預言と私たち

聖書に書かれていることばは、すべて神の預言であり、時の流れを超えた神のことばです。その中心は、主イエス・キリストを信じることによって罪から救われるという、福音（＝善き知らせ）です。「罪」とは、聖い神から離れている性質です。「罪」の問題が解決されないと、だれかを憎み続けたり、自分の不幸をだれかのせいにし続けたりします。「私はそれでかまわない」と思うなら、聖霊は無理強いをなさらないお方ですから、離れて行かれます。ですが、「神さま、こんな私を憐れみ、救ってください」と願うなら、聖霊はあなたの心に入り、**「子よ、あなたの罪は赦された」**と語ってくださいます。神の救いを受け入れるか否かは、あなた次第です。

神が遣わされた救い主イエス・キリストを受け入れてください。